レッスン“31”

テーマ：説明

MAC“31”/MEN/DOC

私の兄弟・姉妹たち、

スピリット・光・火の子供たちよ。

私たちは常に主、絶対、神の聖性によって抱かれています。

　　私たちは創造の諸世界における意識の様々な形について述べてきました。汎宇宙的ロゴスの意識があり、また絶対存在のダイナミックな現われの意識…それは聖霊的表現である…があることも述べました。

さて今私たちには明確にすべきものがあります。ロゴス、キリスト・ロゴスが役目を担っている、という時、それは何を意味しているのでしょうか？英語の聖書に書かれているようにロゴスが「最初に」あるのではなく、神は「パワー」を有しているのだ、とかって述べました。

イエス・キリストが「山と谷が存在する前に、私は存在する」と述べた時、主イエスはどの意識について述べていたのでしょうか？彼はイエス・キリストとしての意識、同胞であるあらゆる人間が理解可能な意識を持つ、パーソナリティーとしての彼自身、について話していたのでしょうか？それとも、イエスは絶対存在の本質の中にあり、それゆえにパワーを有しているキリスト・ロゴスについて話していたのでしょうか？イエス・キリストは絶対存在のロゴス的本質と一体である主のロゴス的本質について述べていたのです。彼は「あらゆるものが存在する前から私はある」と述べていますが、その理由は彼が「創造のステート」を超えた状態、時間・空間の意味を超えた状態について述べていたからです。

従って、キリスト・ロゴスは絶対存在の本質内にあり、聖霊的現れの意識が絶対存在の絶対的聖霊意識と一体であるのと同じように、彼は絶対存在の絶対的ロゴス的セルフ・エピグノシスと一体なのです。

ロゴス的本質あるいは聖霊的本質が絶対存在と「一体である」と私たちが述べるとき、それが全体である絶対意識と一体である、という意味でないことを述べる必要があります。

要するに、キリスト・ロゴスは「パワーを有している」のですが、しかし現れとしてキリスト・ロゴスは汎宇宙的キリスト・ロゴスとなり、そのようなものとしてそれは聖霊的現れと一体であり、それと等しいのです。

あなたに与えられているエクササイズは、あなただけのものとして保持する必要があります。あなたがそれらのエクササイズを実践するときには、あなた自身の内側が静まっていることが重要です。それらのエクササイズは真の探求の結果なのです。そう述べたからといって、今日人間が現することを過去の時代において現すことができなかった、という意味ではありません。

私たちが「人間」と言うとき、この小さな惑星上の人間だけについて述べているのではなく、様々な宇宙のなかの人間をも含んでいます。人間が現すことができるものは何であれ全て、すでに現されているのです。すべてはいわゆる汎宇宙的潜在意識のなかに記録されています。しかしながら、私たちは何かを現すためにその状態に同調することを欲しません；何であれ現すものは真の探求の結果である必要があります。それは私たちの気づきのレベル、思考・行動の仕方としての私たちのレベルの結果でなければなりません。

**質問**：何かがすでに表現されているということは、私たちはそれを質的により良いものにしている、ということなのでしょうか？

**Ｋ**：違います。それはこの創造界に存在する他の人類によって既に現されている、という意味です。なぜなら、別のシステムにおいては、別の人類が私たちよりずっと早くスタートしているからです。しかし、この地球においては、私たちは特定のプロセスに従って啓発に向かっているのです。さらに、私たちがこの地球で現していることを、別の惑星の人類はまだ現していません。また、別の人類はまだ転生のサイクルに入っていないかもしれません；別のシステムでは彼らのサイクルを完了させようとしているところかもしれません。多くの、無数のシステムでは既にサイクルが完了し、別の無数のシステムにおいては今この瞬間彼らのサイクルを始めようとしています。各瞬間において、無数のシステムがそれらのサイクルを始めようとしています。このような内容はあまりにも広大なので、人間の頭による理解を超えています。

あなた方は徐々に、それら異なった輝きの影響によって経験すべきことを経験しようとしているので、ただ忍耐が必要です。

**質問**：なぜ私たちは自分の前にある純白の壁において自分自身に対面しているのか、説明していただけますか？

**Ｋ**：自分の前にあるサイドに向かって立っている時、私たちが見ているのは自分のセルフ（self, 自己）です。以前、レッスンの中で述べたように、私たちの前にあるサイドは実際には鏡なのです。ですから、問いを発し、分析したりするために自分の前にセルフがあるのです。しかし同時に、自分たちのこのセルフに何かを提供できることが必要です。それでは、どのようにしてそれを行うのでしょうか？自分たちの気づきに働きかけることによってです。それらすべては気づきの上昇を助けるためのエクササイズです。

Page2

私たちの前にあるサイドは白によって示される鏡です。私たちは、啓発に導くのとは反対のサイドに面して立っているのです。私たちは、自分を啓発に導く道とは反対の道にフォーカスしているのです。私たちは地上的なもの、自分たちが魅せられている物質的なものに向かって立っているのです。

これらのエクササイズは非常に重要なものですが、あなた方は何であれ他の影響、および外側における心配から自由になっている必要があります。四つのサイドからの輝きのなかにあって、それらの輝きの影響のなかに自分を置いて、自分自身を自由に、オープンにする必要があります。それらの影響と共にあって、自分自身にとどまり、オープンになり、それらを受け取る準備ができているようにするのです。何をも恐れないようにするのです。

**質問**：もし自分のセルフが自分の前にあるのなら、誰が問いを発し、誰が問いに答えているのでしょうか？

**Ｋ**：私たちのセルフの二元性が問いを発し、答えを得ているのです。なぜなら、私たちには二元性および多様性という能力があり、

実際、この二元性という能力の助けによって、現在のパーソナリティーはその存在を認識することができるのです。二元性の現れなしには、私たちは自分が存在することを認識することができません。この二元性の現れなしでは、いかなる想念形態もおそらく形成されません。また、例えば、事故またはある病気にかかった後で植物人間になることがありますが、それは二元性の現れが表現されなくなったからです。

このワークの間、現在のパーソナリティーが特定のワークから注意をそらそうともがいている事実に、気づく必要があります。

特定のワークの目的とは、小文字の「ｐ」で綴られる現在のパーソナリティー、それはエゴイズムの異なった局面なのですが、それをまさに死に至らしめること、です。

あるいはワークの目的とは、小文字の「ｐ」で綴られる現在のパーソナリティーを、インナーセルフの特質を多く現すパーソナリティーに置き換えることです。

それゆえに、インナーセルフの特質からの現れを助長するエクササイズ、例えば特定の瞑想をしようとすると、幼児である現在のパーソナリティーが注意をどこか他の場所にそらそうとするのです。

このような現象はきわめて一般的ですが、あなたは執拗にそのワークの遂行を続ける必要があります。

もし続けることが不可能だと感じたら、いったん止めてまた後で再度挑戦します。

　それゆえに、自分は立ち上がると言う時、「だめだ、お前は座っているべきだ」と注意する別の声があるのです。あるいは、あなたがサイドに面している時、面している感覚を維持したり、異なったサイドに面するのが非常に困難になるのです。

　すべて良いことは困難な努力の結果なので、あなたは執拗に努力する必要があります。

エクササイズは必要であり、それらはとても重要です。私たちが触れることのない能力とかパワーを表現するのではなく、気づきの上昇を助けます。私たちはパワーとか能力のセンターに触れようとはしません。なぜなら、もしそうするなら、最終的には幼児的なパーソナリティーにパワーや能力をもたらすことになるからです。

　　探求者にとっての真剣な問いとは、＜同胞の人間に益をもたらすために、さらにはその特定のパーソナリティーにとって有益となるために、どうしたらそれらの能力とパワーをコントロールし、提供できるか＞です。なぜなら、幼児的パーソナリティーも最終的にはその結果による苦しみを避けることはできないからです。私たちは成長することを求め、表現されるものはすべてその成長の結果であらねばなりません。不幸にも、知られている大部分のシステムはたとえ彼らがそれを否定していようとも、パワーと能力に近づくためのメソッドを使用しており；魔術を使ってそれらのセンターに触れているという事実を否定することはできません。

エレブナにとっては、触れることが許される唯一のセンターは中央の柱にあるセンター、つまり意識とセルフ・エピグノシスのセンターです。そうです、それらのセンターについては情報としてあなた方に話し、また既に聞いていることですが、しかし他のアプローチのようにそれらのセンターを扱うエクササイズがあなた方に与えられることは決してありません。そうです、私たちはそれら全てについて知っており、それらを既に通ってきました。私たちはそれらを既に実践したこともありますが、しかし私たちは同じ場所に留まっているわけではなく、前に進んでいるのです。過去においては、それらは人間に知られていた唯一のメソッドでした。それらのメソッド、アプローチを使用することによって私たちは現在のポイントに到達したのです。しかし、私たちは現在に生きており、現在に過去を持ってくるべきではありません。

私たちが過去と言う時、気づきのレベルとして、思考・行動の仕方としての過去を意味しています。というのも、私たちが過去に表現したものは何であれ全て、ずっと低いレベルの気づきの結果だからです。常に進化、成長の動きがあるのです。

**質問**：もしそれらのメソッドが試みられ、結果的に効果があったのなら、なぜ私たちはそれらを続けて実践しないのですか？

Page3

**Ｋ**：いいですか、もし私たちがそれらを実践しなかったとしたら、どのようにしてそれらを比較し、それより優れたものを見出すことができるでしょうか？考えてみてください。観察・比較することによって、私たちは何かを理解し、結果としてより適したもの、より良いものを認識することができるのです。それらを試みなかったなら、どうしてそれがわかるでしょうか？私たちをより高いレベルに導いたものは何であれ、その当時は良いものとみなされていました。しかし、私たちが今立っているポイントから見れば、今その当時のレベルを表現するならば、それは否定的なものとなるでしょう。同じように、今私たちが立っているポイントも、将来もっと高いレベルにいる私たちから見れば、否定的なものとみなされるでしょう。それについて考えてみてください。

　絶えず進化しており、意味も常に変わっていきます。今日許されることでも、より高い気づきのレベルの未来においては許されないものとなるでしょう。実際、善の意味も常に変化していきます。なぜなら、何であれ理解できるとみなされるものは全て、意味を作り出すことによってそのようにみなされるからです。そうではありませんか？しかし、究極的には、私たちは意味の創造によってではなく、同調によってすべてを理解するようになるでしょう。意味、意味を使用すること、二元性は今どこにあるのでしょうか？二元性の使用を認識する必要はありません。

**質問**：それでは、人々が意味というものを経る必要のない時代の到来はありうるのでしょうか？

**Ｋ**：もちろんです。なぜなら、人々は意味を通じて進化するからです。経験を経ることが必要であり、経験することなく通過することはできません。いいですか、もしあなたがここに立っていて、どこかに到達することを欲しているとしましょう。あなたはいきなりそこに到達することは不可能であり、特定の道を経てそこに到達するのです。

　覚えておかねばならないことは、道はいつも真っ直ぐであるとは限らないということです。もし私たちに助けを提供するために誰かが来るとしたら、それは私たちが真っ直ぐな線に沿って進むことができるよう助けるためなのです。最愛のお方（＊イエス・キリスト）でさえ、農夫と鋤の例え話を使ってそれについて述べています。重要なのは現在の瞬間です。なぜなら、その農夫は地上にしっかりと立って、鋤を握り、前を見ています。もし彼が特定のポイントにより速く到達したいなら、まっすぐ進む必要があります；もし彼が後ろを見るなら、鋤はその場所をあちらこちら動きまわることになります。ですから、私たちは他の人々の言うことではなく、彼に従って進みます。私たちは探求する必要があり、この道においてさまざまな相対リアリティーを経験する必要があります。その道が最終的には絶対リアリティーへと到達するのです。しかし、私たちが今知っていることは全て相対リアリティーの様々なレベルであり、成長するにつれて、私たちがいかに無知であるかがわかるのです。真剣な真理の探求者は教条的、ドグマティックであってはなりません。真理と比べたなら、私たちは何も知っていないのです。私たちが真理の一部となった時には真理について知ることができますが、真理を知ろうとしてそれに向かっている間は、真理を知ることはできません。私たちが転生のサイクルにいる間に真理を知ることができるのでしょうか？大きく否と答えましょう。真理とリアリティー（＊Reality、絶対のリアリティー）について知っていると主張できる人は誰もいません。

**質問**：それでは真理について知っているというよりむしろ、それについて推測しているということでしょうか？

**Ｋ**：そうです、私たちがリアリティーについて、あるいは存在の諸世界に関するリアリティーについて話すとき、それは経験的知識の結果ではなく、以前のレッスンで述べたように、エピグノシスとして内側から来るものです。それは言葉を通してではなく、それらのリアリティーを経験している他の存在との同調によるものです。それゆえ、このポイントから上のことに関して私たちが述べることは全て経験的知識によるものではありません。もし誰かが存在の諸世界に関する経験的知識を有していると主張するなら、実際にはそれは違います。それは単に潜在意識のなかに飛び込んだだけです。

**質問**：それはドグマティズム（＊教条主義）の形態ではないのですか？

**Ｋ**：違います。なぜなら、唯一触知できるものはすべて実存の諸世界のなかにあるからです；存在の諸世界は現在のパーソナリティー向けのものではありません。

　以前のレッスンで述べたように、ここから上の線は魂のセルフ・エピグノシスのためのものです。それらは魂のセルフ・エピグノシスの諸世界であり、それらは同化の諸世界であって同調の諸世界ではありません。それらは、全てが全てのなかにある世界なのです。高次ノエティカル界は、たとえ実存の諸世界のなかにあっても、形という境界がなく、形にはまらない諸世界であり、そこにおける形はイデアとして表現されています。そのレベルにおける現在のパーソナリティーは無知という限界から自由になっており、完全ではなくともかなりの部分インナーセルフの特質を表現しています。そして援助するために現在のパーソナリティーは転生のサイクルに留まるのです。

急いで上のステートに到達する場合、その唯一の正当性は、同胞の人間の苦しみを軽減するポジションに入るということです。存在の諸世界に入ることができるポイントに真っ先に到達する人は、この惑星を最後に去る人となるでしょう。私たち全員がこのポイントを通過して、全員が魂のセルフ・エピグノシスを表現するようになる時、その人は最後にこの惑星を去るのです。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

EREVNA/MAC31/SEN/PYR8.KE4

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

エクササイズ（PYR8/K4/NO2）

あなたの心にかかっているもの全てを解き放ちます…純白の自分をイメージし、自分の形の境界を感じるようにします。あなたは自分の形の境界を感じており、あなたは純白です…今あなたがいる場所はあなたにとってよく馴染んでいる場所であり、何がどこにあるか良く知っています。この特定の場所にあなたが存在していることを意識的に知っています…この部屋、あなたの存在はこの部屋のなかで意識的に認識されています。今、金色の光がこの部屋のなかに入ってきて、部屋全体が金色の光で覆われています…この金色の光に包まれることによって感じる気持ちを、あなたは自由に感じています。あなたの現在のパーソナリティーのドアーを開きます…静かにし、光に包まれることによるいかなる影響をも自由に感じます。あなたはハートのセンターで、そして同時にあなたの現在のパーソナリティーの他のセンター、つまり太陽神経叢と頭のセンターでも何かを感じています。神が無償で与えてくれることに感謝を捧げます。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。

エクササイズ（PYR/KE8/NO.3）

　あなたの心を邪魔するもの全てを解き放ちます…あなたは純白であり、自分の形の境界を感じています。アガピという言葉を繰り返しながら、あなたは静けさ、静寂、至福の状態へと入って行きます。今あなたは正方形の真ん中に立っており、その正方形の各サイドはそれぞれ異なった色で輝いています…右からは赤い輝き…左からはウルトラ・バイオレットの輝き…後ろ側からはホワイトブルーの輝き…そして前は白く輝いています。

　あなたはこの正方形の真ん中に立っていて、これら異なった色の輝きに触れています。それでは、あなたの現在のパーソナリティーの意識のセンター、およびセルフ・エピグノシスのセンターを活性化させましょう…太陽神経叢からは、ホワイトブルーの光が太陽のようにこの四角のなかで輝いています…あなたのエーテルのハートからは、ホワイトピンクの光が太陽のように正方形のなかであらゆる方向に向けて輝いています…そしてこれらの輝きは正方形の中でのみ輝いています…頭のセンターからは金色の光が太陽のようにあらゆる方向に向けて輝いており、それもまたこの四角のなかでのみ輝いています。あなたの意識とセルフ・エピグノシスのセンターからは三つの輝きがあります…この正方形の各サイドからは四つの輝き、そして現在のパーソナリティーからは三つの輝きがあり…今、全部で七つの異なった色の輝きがあります。あなたが立っているこのスペースには七つの異なったバイブレーションの輝きがあり…これらの波動、これらの異なった輝きはそれぞれ他の輝きから干渉、影響を受けることなく輝いています…あなた自身の白の輝きは…あなたの前のサイドの白と似ていますが…同じ波動ではありません。あなたの背後にあるホワイトブルーもまた…太陽神経叢から輝いているホワイトブルーの波動とは異なっています。この特定のスペースには七つの異なった輝き…七つの異なった波動の色があります。あなたは現在のパーソナリティーのドアーを開きました…しかし、同時にあなたは与える用意ができています…あなたは受け取るためのみならず、同時に与えるためにこれらのドアーを意識的に使うことができます。あなたは今、前にある白く輝いている壁に面していますが、実際にはあなたは…自分自身に面しているのです。このポジションからあなたは自分自身についてのワークを始めます…真理の探求者の真のワークはこのポジションからスタートします。アガピ…アガピ…アガピという言葉を繰り返します。

私たちは常に主、絶対、神の聖性に抱かれています。